

令和2年8月6日付・山陰中央新報

島大、県立大 また爆破予告

7日、敷地立ち入り禁止

島根大(松江市西川津町)と島根県立大(浜田市野原町)を「爆破する」といった内容の脅迫文が、インターネット上の掲示板に書き込まれていたことが5日、分かった。両大学は県警に

通報し、爆破を予告された7日は、敷地内の立ち入り禁止を決めた。

県警と両大学によると、掲示板には「島根大学と島根県立大の主要建物を7日爆破し、キャンパス最寄り駅のどこか1カ所でトリウムを散布する」といった書き込みがあったという。県立大は7日に全キャン

パスを立ち入り禁止とする。島根大は6日午後7時～7日午後1時、松江キャンパスと出雲キャンパス、付属学校園(幼稚園、小学校、中学校)を立ち入り禁止にする。医学部付属病院は通常通りの運用とする。県警は警戒を強めるとともに、威力業務妨害の疑いで捜査を進めている。

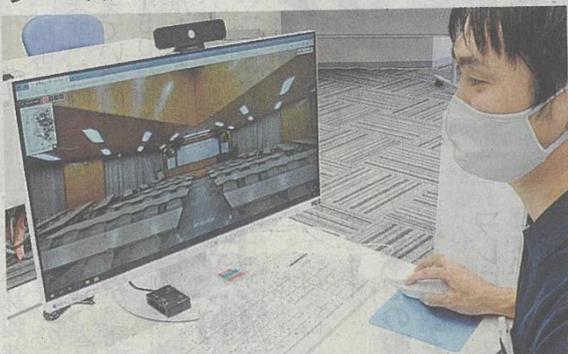
同様の手口で、両大学と島根県庁(松江市殿町)を7月10日に爆破するという書き込みがあったが、被害はなかった。県警が関連を調べている。

大学紹介VR画像制作

島根県立大松江第1弾 進路選択の参考に

エムテック

新型コロナウイルスの感染拡大で大学のオープンキャンパスが中止を余儀なくされる中、VRコンテンツ制作



パソコンで島根県立大松江キャンパスの施設のVR画像を確認する植田晃次主任主事（松江市浜乃木7丁目、同キャンパス）

新型コロナウイルスの感
染拡大で大学のオープンキ
ャンパスが中止を余儀なく
される中、VRコンテンツ制作
を手掛けるエムテック（松
江市上乃木5丁目）が、大
学を紹介するVR（仮想現
実）画像の制作を事業化し

た。まず、島根県立大松江キャンパス（同市浜乃木7丁目）分を制作。今後も県内の他の大学や専門学校などを対象に事業拡大を目指す。同社は防水塗装工事が主業で、近年は新規事業としてVR技術を活用したコンテンツ制作に力を入れており、これまでは飲食店や美容室などからの受注が多かった。同キャンパスは例年、7月と10月に県内外の高校生と保護者を対象にオープンキャンパスを開いているが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止とした。ホームページ（HP）

にカリキュラムなどを紹介する動画サイトの特設して対策を講じる中、さらに施設の詳細を知ってもらおうとVR画像の活用を決定。同社が制作を手掛け、益明けからHPで公開している。利用者はパソコンやスマートフォンを使い、画面に表示された「矢印マーク」に沿ってキャンパス内を進んでいく仕組み。地域文化演習室や大講義室、絵本図書館「おはなしレストランライブラリー」など主要施設を360度で見ることができ、VR画像を通して大学の雰囲気に触れ、進路選択の参考にすることができる。同社が大学のVR画像を制作したのは初めてで、榎原拓也社長は「今回の実績を踏まえ、他大学や専門学校などへVRの利用を増やしていきたい」と話し、同キャンパス教務学生課の植田晃次主任主事は「入学後に学ぶ姿をイメージしてほしい」と利用を呼び掛ける。（松浦光芳）

～山陰で暮らそう～

多言語で話したい!



どこに行きましたか?

コロナ禍で、遠方への帰省や旅行はなかなかできなかったという人も多いだろう。都市圏に住む家族が帰ってこず、さみしい思いをした人もいたかもしれない。今年の夏は、どんな思い出ができただろうか。

例年とは事情が異なる夏休みも終わった。今回のフレーズを覚えて、会話を楽しむにはぴったりのタイミングだ。学校や職場などで実践してみよう。(山口春絵)

行き先

(ポ) どこに行きましたか?

Onde você foi?

オンジ ポセ フォイ?

(中) どこに行きましたか?

去哪里了?

チュナーリラ?

(ハ) どこに行きましたか?

Bạn đã đi đâu chưa?

バンダディ ダオ チュア?

(イ) どこに行きましたか?

Anda pernah pergi ke mana?

アンダ プルナ プルギクマナ?

(タ) どこに行きましたか?

Saan ka nag-punta?

サアン カナグ プンタ?

※(ポ)…ポルトガル語、(中)…中国語、(ハ)…ベトナム語、(イ)…インドネシア語、(タ)…タガログ語



(イラスト・たかはしちかえ)

旅行のとき、インドネシアの人は食事と買い物重視する。各地の名物料理は、旅先での楽しみとして、旅番組でもよく取り上げられている。会員制交流サイト(SNS)に投稿するため、旅先で食事の写真も撮るのも大事な。買い物は、おみやげが中心となる。よく買うのは、お菓子やスナック類だ。最近は芸能人が出しているおみやげ店も、人気を集めている。地名が入ったTシャツも、おみやげとしてよく売られている。

インドネシア人

旅行では食事と買い物重視

インドネシアの友人と浅草に言ったときは、「東京」と書かれたものを、10枚以上おみやげに買っていた。気候的に一年中着られるので、実用性も高いのだろう。日本から持って行ったおみやげで、特に喜ばれたのは、インドネシアでは売られていない。(塩谷もも・島根県立大准教授) 毎週木曜掲載

音声はこちら↓

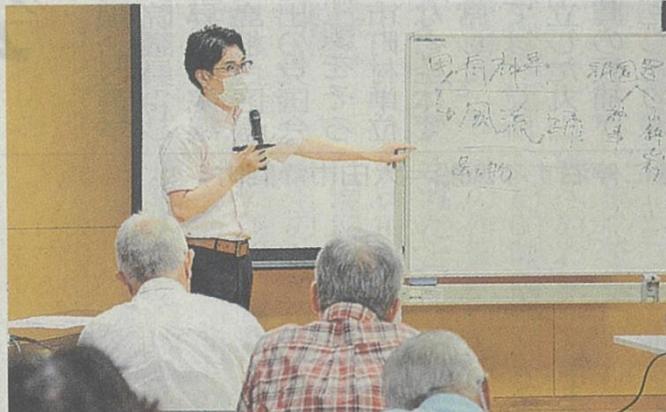


外国の方に関わる相談や情報提供は

■しまね国際センター
相談専用ダイヤル
070-3774-9329

松江・島根

地域見直すきっかけに 加賀神社遷宮 住民、歴史学ぶ



曳舟神事について解説する島根県立大の中野洋平講師—松江市島根町加賀、島根公民館

20年に1度の遷宮に伴う「曳舟神事」が新型コロナウイルスの影響で中止になった加賀神社（松江市島根町加賀）の遷宮の歴史を知る講演会が28日、島根町公民館で開かれた。住民25人

が集まり、遷宮委員と有識者が伝統継承の重要性を訴えた。

加賀神社はかやぶきの屋根のふき替えを終えたが、女装した氏子が神に見立てたわら人形を舟に載せて町

内を歩く「曳舟神事」は中止になった。

講演会では、遷宮委員を務める山田和彦さん(67)＝松江市島根町加賀＝が、氏子で近くに住む佐藤一孝さん(59)の撮影した前回神事の映像を放映し、行事の流れや歴史を紹介した。

続いて島根県立大人間文学部の中野洋平講師(40)＝民俗学＝が、神社の中にあつた棟札を基に、松江藩時代の遷宮の手続きや、18世紀を境に仏教系から現在の神道系に移った信仰の變化を解説した。

中野講師は「身近な神社から地域を見直す大切さを知ってほしい」と訴えた。

近くの青戸和雄さん(71)は「勉強になった。昔の人が言っていて聞かせてくれたことが分かった気がした」と喜んだ。

(景山達登)